





## パキスタンへのコンテナ送り出し・到着報告

2020年度のコンテナ送り出し

- ◆第71回コンテナ  
2021年1月19日 23トン549kg送り出し  
⇒3月19日 荷下ろし@カラチ
- ◆第72回コンテナ  
2021年3月31日 24トン403kg送り出し  
⇒5月11日 荷下ろし@カラチ
- ◆第73回コンテナ  
2021年6月8日 24トン853kg送り出し  
⇒8月11日 荷下ろし@カラチ
- ◆第74回コンテナ  
2021年8月10日 25トン198kg送り出し  
⇒9月18日 カラチ港到着予定



第74回の送り出し ボランティアの皆さんと (JFSA千葉センター)

8月10日（火）、今年度4回目となる第74回目のコンテナ送り出しをJFSA千葉センターで行いました。

8月の強い日射しが照り付け、コンテナ内はもとより倉庫内も大変厳しい暑さとなりました。扇風機をフル稼働させて、休憩や水分補給をこまめにとり、無理のないようにみなで気を配りながらすすめました。

今回も作業には千葉ダルクや、あうんのメンバーの他、回収協力団体の方や軒先市の出店者の方などが参加してくれました。コロナ禍となってからはボランティアの人数制限をしていますが、今回は酷暑で体力の消耗が予想されたため、ショップのお客さんの若者にも助っ人の声かけをし、快く参加してくれました。そして、積み込んだ量はこれまで最高の25トン198キロ！無事に作業を終えられたのは皆で声を掛け合い一丸となってくれました。集合写真の通り、皆さんのいい顔が達成感を物語っています。

今回積み込んだ荷物は主に2021年5月末～7月末までの回収期間に集まった古着などです。中でもパキスタンでの販売価格の高い中古の毛布などの寝具類・下着類・ハンカチ・タオル、生地は直ぐにパキスタン輸出用となるため、今回積まれたものも多くあります。コンテナは9月18日にパキスタンのカラチ港に到着する予定です。

今年度計画の4回の送り出しは実行することができましたが、AKBGの古着販売事業としては厳しい年度となりました。コロナ禍によるコンテナの海上運賃の高騰により、経費が増し利益が減っているためです。学校の運営費となる利益の減少が課題となっています。

もうひとつの懸念として、アフガニスタンの情勢があります。AKBGが受け取ったコンテナは古着卸業者ワーリー氏・ニアーズ氏に販売されます。その後はコンテナの荷物の8割程がアフガニスタンの買い付け業者に買われていいき、さらにアフガニスタンから中央アジアの国々やトルコ・イランへと売られていくと聞いています。アフガニスタン社会の混乱が続けば、古着の流通や市場にも影響が現れることが考えられます。何よりもまずは古着の行方に暮らすアフガニスタンの人たちの生活が落ち着きを取り戻すことを願います。日本から送られた古着や毛布がリサイクルされることも、それによって学校の運営費が生まれ子どもたちが学べることも、古着を使う人たちの暮らししがあって成り立つことです。

(国内事業担当事務局 入江賢治)



カラチに到着したコンテナ（ニアーズさんの倉庫前）

## kar-khana（カルハナ）事業



グルカパンツ（生成り・デニム）



リメイクハット  
カプレでリメイクした商品

「このサイズで間違いないですか？」この生地で20枚の注文ですね？」電話の向こう口から流暢な英語で確認してくれるのは、縫製工房スタッフのアーディルさんです。少しでもわからないことがあれば、必ず確認のメールや電話をよこします。彼はとてもまじめで、コロナの影響で現地に赴くことができない私たちをいつも安心させてくれます。

私がカルハナ事業を正式に引き継いだのは6月でした。さつそく引き継ぎの挨拶と作業の進捗状況の確認のためにアーディルさんに電話をかけました。お互いに自己紹介をしました。お互いに自己紹介をすればところで、私は聞きたいたことがあつたのですが、思うように英語が出てきません。学生時代に学んでいた英語力は、頭の奥のほうで、ずいぶんと前から冬眠中なのです。起こそしても、そう簡単には目覚めてくれません。私が「ア、ウ」と「ン」と言いながら困っている様子が電話の向こうにも伝わったのでしよう。彼は「アーエーオーケー？」と聞いてきました。何か答えなければと思って、とつさに私の口から出た言葉は、「ア・ト・デ・メール・シ

ル」。それから、眠っている英語力を打ち、それでも起きないと起きていなかつたことを反省しました。それからは、眠っている英語力を鞭を打ち、それでも起きないと起きる毎日です。私のつたない英語力を助けてくれるのはルールや仕組みです。日本の販売状況や縫製工房のオーダー状況と作業の進捗具合を可視化して、見やすいように整理しました。そうしたことでも現在地を知ることができます。現在地がわかれれば、目標に見て、今やるべき行動と、これからやらなければならないことが具体化して整理できます。それを共有したりして、互いに理解して納得のいくことで、互いに理解して納得のいくからちで仕事を取り組めています。これからは、ウェブストアにも力を入れていきます。まずは販売環境を整えて、新たな販路拡大を目指します。



「kar-khana」のタグを縫い付けるリズワナさん



縫製工房のスタッフ  
右から2番目がアーディルさん



**kar-khana**

整理する

kar-khana事業担当事務局 佐々木 貴弘

「。。。」というカタコトの日本語でした。

商品を作らうで大事なことは、上手に話すことではなくて、理解をしてもらうことです。連絡をする前に伝えたいことをしっかりと整理で伝えたいことをしっかりと整理で反省しました。

た。それからは、眠っている英語力を鞭を打ち、それでも起きないと起きる毎日です。私のつたない英語力を助けてくれるのはルールや仕組みです。日本の販売状況や縫製工房のオーダー状況と作業の進捗具合を可視化して、見やすいように整理しました。そうしたことでも現在地を知ることができます。現在地がわかれれば、目標に見て、今やるべき行動と、これからやらなければならないことが具体化して整理できます。それを共有したりして、互いに理解して納得のいくことで、互いに理解して納得のいくからちで仕事を取り組めています。

これからは、ウェブストアにも力を入れていきます。まずは販売環境を整えて、新たな販路拡大を目指します。